

丹波小
学校便り



丹波の流れ



発行日

令和6年7月19日

第5号

文責：芹川由美

1学期の終わりに際し

先日、4年生の児童が国語の授業でインタビューをする学習をしていました。ある児童から「教頭先生は丹波山村のどの場所が好きですか？」とインタビューを受けました。

私が好きな丹波山村の場所は・・・

春はあけぼの。

やうやう白くなりゆく山ぎは 少し明りて 紫だちたる 雲の細くたなびきたる

夏は夜。

月の頃はさらなり。

闇もなほ 螢の多く飛び違ひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも
をかし。雨など降るもをかし。

清少納言の「枕草子」ではありませんが、朝起きて部屋から見える丹波山村の景色。そして、朝もやの中にそびえたつお城。

夜、部屋を暗すると見える丹波山村の家の灯り。それと、夜空に輝く多数の星。螢は飛んでいませんが、螢に負けないくらいきれいな星を眺めながら、時々気持ちの良い風とともに夜を楽しんでいます。

次の日には授業の中で、「教頭先生は何時代に生まれたの？」と聞かれ「昭和の生まれだよ」というと「昭和？昭和生まれ？昭和ってことは、教頭先生は戦争を（経験）したの～？」と聞いてきました。きっと国語や社会の授業で戦争に関することを学んだ後だったのでしょう。確かに昭和の時代には戦争はありましたが、私は戦争経験者ではありません。でも、彼らにとって「昭和＝戦争」というイメージがあるのかもしれませんが。そのような言葉から「子どもたちはそう思ってるんだなあ」と改めて感じ、子どもたちの感覚というものを学びました。とはいえ、『なんとかわいい子供たち！』。

このような日常が「平和だな、幸せだな」と感じます。

さて、今日で1学期も終了しました。丹波小の子どもたちは、この1学期にまた成長しました。成長の度合いは人それぞれではありますが、新たな友だちとの出会い、担任や教職員との出会い、また、学校という場で、いろいろなことに夢中になって取り組めた結果です。

保護者のみなさま、地域のみなさま、本当にありがとうございました。

また、2学期もどうぞよろしくお願ひいたします。

迅速な救命活動で命をつなぐ 救命救急法

病気や事故で急変した人を救命し、社会復帰させるために必要な一連の流れを「救命の連鎖」というそうです。救命の連鎖を構成する4つの輪が素早くつながると救命効果が高まります。目の前で人が倒れて、あえいでいたり、うめいていたり、いびきをかくように呼吸している場合、「大丈夫、呼吸している」などと思うことは危険だそうです。その時は、『行動を起こすことのサイン』だそうです。

消防署の方からの講義で印象に残っている「ASUKAモデル」を紹介します。

さいたま市立日進小学校の桐田明日香さん＝当時（11）＝は、放課後の駅伝代表選手選考会に向けて張り切っていた。甘えん坊だけど、勉強も運動も頑張る努力家の明日香さんは、玄関で母に「駅伝、頑張るね。ママ大好き」と投げキスをして、元気に登校していった。2011年9月29日。

午後4時過ぎ、明日香さんは選考会で規定の1000mを走り終わると、突然倒れた。意識はなかったが、保健室に運んだ教諭らは「呼吸がある」「脈も取れた」と判断し特に処置はしなかった。しかし、倒れて11分後に到着した救急隊は、すぐさま心肺停止と判断し、心臓マッサージとAEDによる救命処置を始めた。母が搬送先の病院へ駆けつけると、明日香さんは複数の管をつながれ、ひどくむくんで別人のよう。「どうしたの。どんな姿でもママは明日香を待ってるよ！ 答えて!」。必死に呼びかけると、明日香さんは左の目から涙を2粒こぼし、翌30日に亡くなった。

明日香さんに基礎疾患はなく、医師からは心臓に何らかのトラブルが起きた「致死性不整脈の疑い」と説明された。県立病院の看護師だった母は、その死が本当に回避できなかったのか、学校の対応に疑問を抱いた。倒れた時になぜ心臓マッサージをせず、その場にあったAEDも使わなかったのか。一般的に、心停止は一分経過するごとに救命可能性が10%ずつ低下するとされる。

当時の市教育長は、「誰ひとり胸を押さずAEDを使わなかったのは、講習だけでは足りないからではないか」と思い至り、全国に先駆け、すべての市立学校へAEDを配置した。

『子どもたちを守りたい、死なせたくない』。

手を携えて真相究明と再発防止に当たることで一致した。遺族と市教委が新たな関係を結び、救命マニュアル「ASUKAモデル」の誕生へと一歩踏み出した瞬間だった。

プールがあるからという理由だけではなく、いつ、どこで何が起こるかわかりません。その時に、心肺蘇生をすることができたら、近くにあるAEDを使用することができたら、いのちをつなぐことができるかもしれません。そのためにも救命救急法を1年に1度は行っていきたいです。

自然体験活動をしました

7月18日、コミュニティスクールの活動の1つとして山梨大学の川村先生をお招きし、保小中で自然体験活動を行いました。

木登りをしたり、竹の上をグループで渡ったり、みんなで知恵を出し合い、協力し合いながら活動していく姿が印象的でした。

中学生が声をかけ、保育園児や小学生をまとめてくれました。丹波山村ならではの、なんとも微笑ましい光景に胸が熱くなりました。



↑
『セミになる』という課題。

1学期終業式



本日、1学期が終わりました。終業式の中で校長から児童へ3つの話をしました。

1つ目。1学期に沢山できるようになったことがある。「こんなことができるようになった」「こんなところを頑張った」ということがあゆみに書いてあります。人それぞれではあるけれど、できるようになったことはたくさんあるので、自信をもって生活してほしい。

2つ目。夏休みに頑張りたいことを今日中に決めること。大切なことは『夏休み前』に決めること。

3つ目。

みんなが使うものやマナーについて。「子どもでもしっかりできるよ」「丹波小の子たちはすごいね」といわれるとうれしい。いつでも、どこでも同じようにできる丹波小の子どもであってほしい。などと話をしました。

夏休みは学校から家庭や地域で過ごす時間が増えます。公共の施設の使い方等、どこでも自分のことだけでなく、相手のことを思いやれる子どもであることを忘れずに夏休みを過ごしてほしいです。



2年生の桜音葉さんより「1学期に頑張ったことは国語のテストで100点を取ったことです。そのために夜21時まで何度も練習して頑張りました。友だちの手助けをしたりすることも意識しました。夏休みに頑張りたいことは、プールにいろいろな泳ぎができるようにすることです。

次に、4年生の代表として和真さんが「1学期は学校に早く来ることや1人で来ることを頑張りました。また、算数を頑張りました。夏休みはMOA美術館に行くことが楽しみです。」と話しました。

6年生の柚芽さんは、聞いてくれる人の方を見て、臨海学校での思い出や自然体験活動でのことを話してくれました。



生徒指導担当より夏休みの過ごし方について赤（火遊び）・青（水遊び）・黄色（交通安全）・黒（SNSや人とかかわり方）・透明（ウイルス等）の話、それと公共施設の使い方について丁寧に話をしました。

子どもたちも日常の生活から想像しながら聞いていました。

最後に図書委員会の代表より多読賞の表彰を行いました。



職員紹介

その3



3年所属 武田 美月

4月よりお世話になっております
空気が美味しくて、どこのお店のご飯も美味しい
自然豊かな丹波山村で教員として働けることに喜び
を感じております。子どもたちに負けずに元気よく
頑張りたいと思います。宜しくお願い致します。



4年所属 久島 健征

お世話になっております。
丹波山村は5年ぶりの勤務となります。平日、
週末は、のめこい湯に行き、肌がすべすべにな
っています。のめこい湯で子どもたちと一緒に
風呂に入るのが楽しみです。